

中学生の



アメリカ 研修

貴重な体験

今後に生かします

シカゴのミシガン湖をバックに参加者全員で記念写真。後方の黒いノッポビルは、全米一の高層ビル「シアースタワー」。



3月17日から28日までの中学生の「米国教育文化研修派遣事業」（岩手国際理解推進協会主催）に服部南平さん（葛巻中学校3年）と打野里奈さん（江州中学校3年）が参加しました。インディアナ州グリーンウッドでホームステイや英語での授業を体験した2人から感想を寄せてもらいました。

わ

たしが一番良い体験ができたと思ったのは、会話でした。普段の会話には、中学校で習った単語や表現が多く何とか聞き取ることができました。学校の英語の授業で基礎部分を教えてくれていることを実感し、英語への興味が強まりました。

アメリカに着いて一日目にシカゴに行きました。シカゴは滅多に地震が起きないためれんが造りの建物がほとんどでした。日本ではれんが造りの建物はほとんどありません。シカゴと日本の環境の違いを、その町並みから感じることができました。二日目からインディアナに



打野里奈さん
(江州中3年)

より身近になったアメリカ

行き、ホストファミリーのジエイガーさんのお宅へ泊まりました。温度差が激しい州で、岩手と同じくらい寒い日もあれば、夏のように暑い日もありました。また、朝七時になっても日は昇らず、夜は八時になってもまだ暗くなりません。日本とは違った気候風土の中で過ごすことで、異国情緒が感じられました。



ホストファミリー・ジエイガーさん一家と。

今

回の研修では、今まで体験することのできなかったことがとても多かったです。アメリカに着くまでは、今まで習ってきた英語で通じるかどうか、とても不安でした。また、ホストファミリーがどんな人たちなのか分からなかったことも不安の一つでした。

しかし、ホストファミリーはとても温かくわたしたちを迎えてくれました。ホストブラザーは日本語クラスに通っていたので、少し日本語で会話することができました。学校では、日本語クラスでアメリカの生徒とペアになり、質問をしたり日本のことを紹介したりしました。その外にも体育やセラミック（焼き物）



服部南平さん
(葛巻中3年)

本場のスポーツ観戦で感激

などがありました。また、話し掛けてくれる人も多く、五日間の学校生活をとても充実したものにすることができました。

ホストファミリーとの思い出もたくさんあります。その中でも一番心に残っているのはNBAの試合を観戦したことです。アメリカに行く前は、アメリカの本場のスポーツを一度でいいから見たいと思っていましたが、まさかそれが実現するとは思っていませんでした。ホストファミリーには本当に感謝しています。

その外に、日常生活の会話でも自然な英語の発音を聞き、困ったこともありましたが、英語でコミュニケーションをとることができたことが今回の研修の一番の成果だと思っています。

アメリカから無事に帰国し学校生活に戻っていますが、アメリカのことは一生忘れられない思い出となるでしょう。

ホームステイをしている間、高校へ通っていました。

授業では、一対一でお互いのことを質問し合う場面がありました。わたしたちは英語で、相手は日本語で質問しました。慣れない日本語で必死に質問している姿を見てうれしい気持ちになりました。授業の中で、日本の文化を紹介するために、わたしは二年生のころ習った「ソーラン節」をパートナーと一緒に紹介しました。

わたしは、この研修を通じて日本がアメリカの文化や食べ物などを多く取り入れていること、同時にアメリカにも日本のアニメや食べ物がありお互いに文化の優れた部分を取り入れていることが分かった。今までよりアメリカという国がとても身近な存在に思えるようになりました。明るくわたしたちを気遣ってくださり、思いやりのある方々の中で、わたしたちは充実した生活を送ることができました。貴重な体験をさせてもらったことを、これからも感謝して行きたいと思っています。

ホストファミリー・ジャンセン一家の皆さんと。



今は、アメリカで学んだ英語を授業の中で生かして行きたいと思っています。

また、生徒会活動でも話し掛けていく積極性を生かすことができればと考えています。機会があればまたアメリカに行ってみたいと思います。

最後に、今回の米国研修に関わってくださった方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。

「やっているつもり」の返上

財政危機の深まりを背景に、地方自治体の業務改善の取り組みが全国的な広がりを見せている。

こうした中、選挙の開票は「時間がかかるもの」と思われがちであるが、このたびの県知事・県議選で職員は「開票事務の時間短縮」に取り組んだ。特に会場のレイアウトや人員配置などを見直し、従来より三十人少ない体制の中で二十五分短縮の四十五分で終了できた。県選管が発表した開票事務の効率化を示す職員一人当たり一分間の開票数は三十五市町村中で四番目の早さである。

「いつまでに終わらせるのか」目標設定を明確にし、達成方法を考えて進めた結果である。

これまで「自分たちも結構早い」「一生懸命やっているつもり」が、「目標を掲げ取り組むことで、こんなにも時間短縮できた」と気づいた職員も多かったようである。「行政効率化の第一歩」としてこの取り組みをヒントに問題意識に基づく



日々の「改善」を心掛け、行政能力向上の弾みにしたい。

出場111チーム中10位の好成績を収めました。大会には江州中男子と葛巻中男女、小屋瀬中男子も出場し力走しました。

また、葛巻中学校出身で一関学院2年の久保勇介選手は、高校の部で一関学院の13連覇に大きく貢献しました。



笑顔の江州中学校選手（上段左から打野里奈さん、高館未央さん、下段左から村上芽衣さん、栗村亜由美さん）と久保勇介（写真・右）選手

江州中女子

大健闘 10位

第62回盛岡市内一周継走大会が4月15日、盛岡市みたけの岩手県営運動公園を発着点で行われ、江州中学校女子が大健闘。

盛岡市内一周継走